

タイトル	2020 年度 共同教育学部国語専攻「推薦入試」
評価のポイント	<p>【小論文】</p> <p>日本語の学びについて論じた課題文の最後で提起されている問題について、自分の考えを具体的に述べることを求めた。課題の理解力、論理的な思考力、発想の豊かさ、文章表現力などを評価した。</p> <p>評価にあたっては、以下の点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の内容をよく理解し、設問意図に沿った解答ができていますか。 ・問題のテーマに関連した基礎的な知識をもっているか。 ・解答の記述に当たって正しい論理の運びができていますか。 ・解答の論旨が明快であるか。 ・適切な表現ができていますか。誤字・脱字はないか。文章に乱れはないか。 ・制限字数を満たしているか。極端に短い答案になっていないか。 <p>「語彙の体系性・多様性を意識し、相対化する」金愛蘭、『日本語学の教え方 教育の意義と実践』福島健伸・小西いずみ編著、2016年、くろしお出版、55—56頁</p> <p>【面接】</p> <p>よく知られている文学作品を用いた唱歌の一節を音読させ、それに関する問題を話題として取り上げ、質問に対する返答内容の的確さや表現の適切さ等を評価した。</p> <p>評価にあたっては、以下の二点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問をよく理解した上で返答しているか。 ・高等学校までの国語の知識を十分に備えているか。 <p>【小論文解答例】</p> <p>「そのまま覚えて」といった指導をしないために、大学の日本語に関する授業では、(イ) 普段使っている身近な日本語のしくみを (ロ) 筋道を立てながら自分の頭で考えて学んでいく必要があると考える。以下、略語の作り方を例に説明していく。「セクハラ (セクシャルハラスメント)」、「アジカン (アジア・カンフー・ジェネレーション)」、「国連 (国際連合)」、「群大 (群馬大学)」のように、語の省略は日常よく行われることであるが、略語の作り方にも法則性 (傾向) があると考えられる。前記の例 (データ) からは、複合語の構成要素から「前の二拍ずつ取り出す」という一般化 (仮説一) を得ることができる。しかし、さらなるデータで検証してみると、仮説一には問題があることが判明する。仮説一では、「模擬試験」からは「模擬試」、「亜細亜大学」からは「亜細大」のように、不適格な略語を作ってしまう (適格な略語は「模試」、「亜大」)。仮説一は「カタカナ表記の語は前の二拍ずつ取り出し、漢字表記の語は、前の漢字一字ずつ取り出す」 (仮説二) のように修正しなければならない。このように、大学の日本語に関する授業では、教員から一方通行的に教わるのではなく、筋道を立てながら自分の頭で考えて (自分で集めたデータをもとに自分で仮説を立て、さらなるデータで検証していくような科学的アプローチを取りながら) 学んでいく必要があると考える。(590字)</p>